歯周病について

歯周病は通常診療でもよく遭遇する病気ですが、深刻な症状に発展するには経過が長く、様子を見られるケースが多くあります。しかし、放置しておくと口内炎による食欲不振だけでなく、歯根部の炎症・感染を起こし、鼻炎や気管支炎・肺炎を引き起こす危険性もありますので、十分な観察と適切な対応が必要となりますので、今回お話していきたいと思います。

原因

歯周病は、歯垢中の細菌に対しての炎症反応によって引き起こされます。

猫の場合、細菌に加え、白血病ウイルスや免疫不全ウイルス感染に伴い、歯肉炎・口内炎が発症するケースもあります。

症状

歯周病の症状として、最初に気づかれるのは口臭になりますが、その他に進行すると採食事の違和感や食欲不振、流涎なども見られるようになります。

また、歯肉の炎症から歯根周囲の炎症を引き起こし、上顎骨が破壊されると口鼻ろうと言われる導管を通じ、鼻炎や眼下周囲に蓄膿を起こすこともあります。

治療

歯周病の基本治療は、歯垢・歯石除去（スケーリング）になります。この処置には、通常超音波スケーラーが用いられるため、麻酔が必要になります。

また、重度の欠損を起こした歯や動揺歯は抜歯を行います。抜歯後に、粘膜や歯肉を用い、縫合することもあります。

スケーリング後の歯の表面は、粗造で歯垢・歯石が付着しやすくなっていますので、ポリッシングと言われる歯面研磨を行い、十分な洗浄を行い終了となります。

予防

歯石除去後も放置すると、比較的早期に再度歯垢・歯石が付着するため、処置後のデンタルケアが必要となります。犬・猫用の歯ブラシや練り歯磨きを用い、日常的なケアを心がけてください。